2026年度

大阪大学大学院経済学研究科

博士前期課程入学試験問題

夏季入試	専門科目

【受験上の注意】

1. 経済学専攻経済学コースおよび経営学系専攻経営研究コースの受験者には、解答用紙2冊、経済学専攻応用経済コース、経済制度・事例分析コースおよび経営学系専攻ビジネスコースの受験者には、解答用紙1冊が配付されていることを確認すること。
2. 試験開始後、解答用紙の受験番号欄に受験番号を記入すること。経済学専攻経済学コースおよび経営学系専攻経営研究コースの受験者は、2冊とも記入すること。また、この問題冊子の受験番号欄にも受験番号を記入すること。
3. 経済学専攻経済学コースおよび経営学系専攻経営研究コースの受験者は2科目を選択し解答すること。採点は、解答用紙でのみ行い、**この問題冊子は採点対象にならないので注意すること。**

受験番号

２０２６年度
大阪大学大学院経済学研究科
博士前期課程入学試験問題
（夏　　季）

専　　門

経済学専攻 （経済学コース）	経済学専攻 （応用経済コース） （経済制度・事例分析コース）	経営学系専攻 （経営研究コース）	経営学系専攻 （ビジネスコース）
（科目名） ミクロ経済学　１題 マクロ経済学　１題 確率・統計　１題 （計量経済学を含む） 経済史　２題 経営史　２題 計７題から２題選択	（科目名） ミクロ経済学　１題 マクロ経済学　１題 確率・統計　１題 （計量経済学を含む） 経済史　２題 経営史　２題 計７題から１題選択	（科目名） ミクロ経済学　１題 マクロ経済学　１題 経営史　２題 経営組織・戦略１題 マーケティング１題 会計　１題 最適化数学　１題 確率・統計　１題 （計量経済学を含む） 計９題から２題選択	（科目名） ミクロ経済学　１題 マクロ経済学　１題 経営史　２題 経営組織・戦略１題 マーケティング１題 会計　１題 最適化数学　１題 確率・統計　１題 （計量経済学を含む） 計９題から１題選択

※ 自分の第１志望専攻の指定された科目の中から選択すること。
落丁等の場合は試験監督に申し出ること。
この問題冊子は回収します。

２０２６年度

大学院経済学研究科博士前期課程

入学試験問題

科目名	専攻	備考
ミクロ経済学	経済学専攻 経営学系専攻	

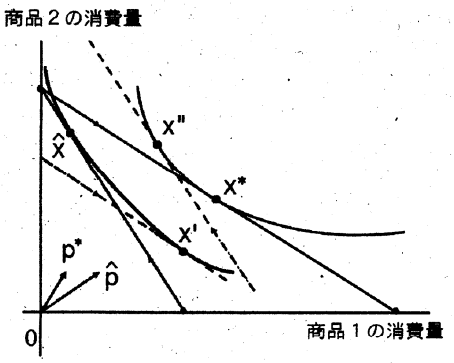
（１００点）

問題は次ページから始まります。

Questions are in the following pages.

日本語または英語で答えなさい。

【1】 消費主体（以後、主体 i と呼ぶ）が2種類の商品（商品1および商品2）の選択問題に直面しているものとする。主体 i が物理的に消費可能な消費ベクトルの範囲（消費集合）X_i は R^2_+ とし、主体 i の効用関数 u_i が定義域を X_i として与えられているものとする。



主体 i の商品1と商品2の初期保有をそれぞれ ω_1 および ω_2 とし、$\omega = (\omega_1, \omega_2) \in R^2$, $\omega_2 > 0$ として2商品の価格を所与とした主体 i の効用最大化問題を考える。消費集合 X_i 上の2点 $\hat{x} = (\hat{x}_1, \hat{x}_2)$ と $x^* = (x^*_1, x^*_2)$ が、それぞれ価格 $\hat{p} = (\hat{p}_1, 1)$ ならびに $p^* = (p^*_1, 1)$ の下で効用関数 u の最大化を実現する消費計画であるとし、さらに $\hat{p}_1 > p^*_1$ とする（上図参照）。次の条件 (a)、(b) を考える。

(a) x を任意の消費計画とするとき、$u(\hat{x}) < u(x)$ なら $\hat{p} \cdot \hat{x} < \hat{p} \cdot x$.

(b) x を任意の消費計画とするとき、$u(\hat{x}) \leqq u(x)$ なら $\hat{p} \cdot \hat{x} \leqq \hat{p} \cdot x$.

(1-1) 上の2つの条件について、正しく述べたものには○、誤りがあるものには×、いずれとも言えない場合には△をつけよ（図はあくまでも思考のための補助的道具であり、前提条件は文章中の内容のみとする）。**（10点：完答）**

1. (a) は成り立つときと成り立たないときがあるが、(b) は必ず成り立つ。
2. (a) は必ず成り立つが、(b) は必ずしも成り立たない。
3. (a) も (b) も成り立つときと成り立たないときがある。
4. (a) も (b) も必ず成り立つ。

(1-2) 適切な選択肢を選んで文章を完成させよ。**（１０点：完答）**

価格が $\hat{p}$ から p^* に変化したとき、即ち商品１の価格が ①{a. 上昇, b. 下降 } したとき、効用最大化点 $\hat{x}$ から x^* の変化にともなって、効用水準も $u(\hat{x})$ から $u(x^*)$ へと変化するが、このとき $u(\hat{x}) < u(x^*)$ であったとしよう。もし点 $\hat{x}$ において上述した条件 (a) を、その真偽に関わらず用いるなら、価格 $\hat{p}$ の下で x^* を購入することは ②{a. 可能, b. 不可能 } である。そして、$\hat{p}$ の下で効用水準 $u(x^*)$ を実現するための最低限の支出額を $e(\hat{p}, u(x^*))$ で表すなら、これは ③{a. $\hat{p}\cdot\omega$, b. $p^*\cdot\omega$} よりも ④{a. 大きい, b. 小さい, c. 大きいとも小さいとも言えない }。

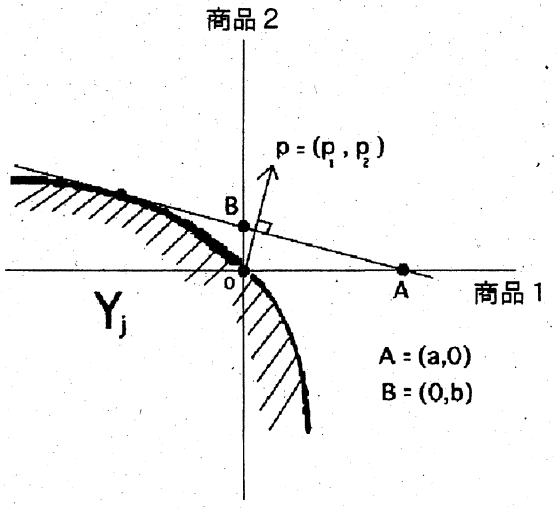
(1-3) 適切な選択肢を選んで上に続く文章を完成させよ。**（１０点：①-②５点+③-④５点）**

上に出てきた支出額 $e(\hat{p}, u(x^*))$ を資産と考え、そこで価格 $\hat{p}$ の下、効用最大化を実現する消費計画（の一つ）を $y = (y_1, y_2)$ で表す。y は定義から明らかに（厳密には資産への条件から不等号は成立しないが）①{a. x^*, b. $\hat{x}$, c. ω} ②{a. 以上, b. 以下 } の効用水準を実現する。点 y は、それが一意的であるとき（関数 e の決まり方から考えて）価格と効用水準の関数と見なすことができる。また、このとき上で見た (b) 条件の $\hat{x}$ を y に変えたものは ③{a. 必ず成り立つ, b. 成り立つことも成り立たないこともある, c. 決して成り立たない }。ちなみに、先に示した図において点 y に相当しているのは点 ④{a. x', b. x''} である。

(1-4) 消費点 x' および x'' を、効用関数 u と支出関数 e（価格と効用水準の関数）を用いて、それぞれマーシャル型需要関数 x^*（価格と所得の関数）ならびにヒックス型需要関数 h^*（価格と効用水準の関数）の値として、それぞれ表現するとき、以下の {a,b,c} の中から適切なものを選択せよ。**（１０点：各５点）**

① $x' =$ {a. $x^*(p^*, e(p^*, u(\hat{x})))$, b. $x^*(\hat{p}, e(\hat{p}, u(x')))$, c. $x^*(\hat{p}, e(p^*, u(\hat{x})))$}
② $x'' =$ {a. $h^*(p^*, u(x^*))$, b. $h^*(\hat{p}, u(x^*))$, c. $h^*(\hat{p}, u(\hat{x}))$}

【2】 ミクロ経済学的に厳密に述べると、生産とはこの世界に存在している財・サービス（商品）を、別の財・サービス（商品）につくりかえる、変形のテクノロジーに他ならない。ひとつの生産行為は、投入物とその数量（負の数で表す）と産出物とその数量（正の数で表す）の組（数ベクトル）として記述することができ、ある生産主体にとって可能な生産行為（ベクトル）の全体は R^n（商品空間）の部分集合として表すことができる。例えば、下の図の Y_j は、商品空間を R^2 として、企業 j の生産技術を表現している。この図をもとに、以下の問いに答えよ。



(2-1) 図において Y_j は境界を含む凸集合であり、原点 0 は Y_j と第一象限（R^2_+）の唯一の共通点とする。また、斜線はその境界から見て左下部分を、少なくとも含んでいることを示しているものとする。このような生産技術を持つ企業に関して、以上の条件のみに基づき、必ず成り立つものに○、決して成り立たないものに×、いずれとも言えないものに△をつけよ。**（１０点：完答）**

1. この企業の可能な生産行為として、何もしないということが挙げられている。
2. この企業は両財を同時に好きな量だけ捨てることができる。
3. この企業の利潤は、必ず非負である。
4. この企業は両財の正の量を同時に産出物とすることができる。
5. この企業は両財の正の量を同時に投入物とすることができる。
6. 価格 p_1, p_2 がともに正であれば、利潤最大化点は必ず存在する。
7. この企業の利潤最大化点は、常に一点である。

(2-2) 図中の $p=(p_1,p_2)$ は、価格ベクトルを表し、この価格の下で生産技術 Y_j を持つ企業が利潤最大化を行ったときの状況を示している。利潤最大化点を $y^*=(y_1^*,y_2^*)$ とし、以下の問いに答えよ。（２０点：５点×４）

(1). 利潤の大きさを p と y^* の座標のみを用いて表しなさい。

(2). 利潤の大きさを p と B の座標のみを用いて表しなさい。

(3). 利潤の大きさを p と A の座標のみを用いて表しなさい。

(4). 利潤の大きさを π とするとき、x を直線 AB 上の点として、p と x と π の関係式を、内積（$\cdot$）を用いて表しなさい。

【3】 下は、2人ゲーム（プレイヤー P1 と P2）とその結果を表すバイマトリックスである。4つの相異なる結果 a, b, c, d をこの2人がつくる社会の資源配分状態と考えるなら、そのパレート最適性、コア資源配分かどうか（2人の間で結託は可能であるとする）、等について論ずることができる。**（下図：U, D は P1 の戦略、L, R は P2 の戦略、セル左側は P1 の利得、右側は P2 の利得を表す。）**

		P2	
		L	R
P1	U	(20,20) a	(11,21) b
	D	(21,10) c	(11,13) d

資源配分状態 a, b, c, d について

（ア）パレート最適であるもの

（イ）Individually Rational であるもの（単独プレイヤーに実現できる自己の取り分とは、相手の戦略が何であろうと実現できる最低レベルの利得と考えよ）

（ウ）コア資源配分であるもの

（エ）ナッシュ均衡であるもの

をそれぞれ挙げよ。**（20点：5点×4）**

【4】 以下の各項目について、厚生経済学の第一基本定理と同値あるいはその直接の適用と言えるものには「第一」、第二基本定理と同値もしくはその直接の適用と言えるものには「第二」、いずれにも該当しないものには × をつけて分類せよ。**（10点：完答）**

1. 個人間の限界代替率が異なるとき、必ず互いを利する交換の余地がある。
2. 何らかのルール制限あっての競争が望ましい。
3. パレート最適でないなら、競争均衡資源配分ではない。
4. 独占禁止法が重要である根拠。
5. 労働生産性の低い企業が、淘汰されるべき根拠。

２０２６年度

大学院経済学研究科博士前期課程

入学試験問題

科目名	専攻	備考
マクロ経済学	経済学専攻 経営学系専攻	

（１００点）

注意事項

(i) 日本語もしくは英語で答えなさい.

(ii) 問題1から問題3すべてに答えなさい.

(iii) *印が付いている問題については，導出過程もしくは説明を付して答えなさい．*印が無い問題については，問題が要求する解答のみを記しなさい．導出過程の記述は不要である.

Instructions

(i) Answer in either Japanese or English.

(ii) Answer all of Questions 1 through 3.

(iii) For questions marked with an asterisk (*), provide the derivation or explanation along with your answer. For questions without an asterisk, write only the required answer as specified in the question; derivations are not necessary.

問題は次ページから始まる.

The questions begin on the next page.

問題 1. (配点: 20 点)

次のようなコブ・ダグラス型生産関数を想定する：

$$Y = A(K)^{\alpha}(L)^{1-\alpha}.$$

ただし，Y は総生産量，K は総資本量，L は総労働量である．A は全要素生産性をあらわす外生変数であり，$A > 0$ を満たす．α は資本分配率をあらわす外生変数であり，$0 < \alpha < 1$ を満たす．

以下の (1.1) から (1.4) に答えなさい．

(1.1) ある期間の総生産成長率が 1%，総資本成長率が 1%，総労働成長率が 0% であったとする．$\alpha = 0.5$ のとき，全要素生産性の成長率を求めなさい．(配点: 5 点)

(1.2) 一人当たり生産量を $y \equiv Y/L$，一人当たり資本量を $k \equiv K/L$ と記す．また，貯蓄率を s，資本減耗率を δ，人口（総労働量）成長率を n と記す．s，δ，n はそれぞれ，$0 < s < 1$，$0 < \delta < 1$，$n > -1$ を満たす．今期の一人当たり資本量を k，来期の一人当たり資本量を k' としたとき，両者の関係を示す一人当たり資本量の遷移式を求めなさい．(配点: 5 点)

(1.3) 引き続き，(1.2) で設定された経済を考える．時間の経過とともに一人当たり資本量が一定となる状態を，定常状態と呼ぶ．定常状態における一人当たり消費水準（c と記す）を，一人当たり資本量 k の式で表しなさい．(配点: 5 点)

(1.4*) 引き続き，(1.3) で求めた定常状態の一人当たり消費水準について考える．$\alpha = 0.5$，$\delta = 0.5$，$A = 1$，$n = 0$ としたとき，定常状態の一人当たり消費水準を最大化する一人当たり資本量 k を求めなさい．(配点: 5 点)

問題 2. (配点: 30 点)

代表的な企業と代表的な個人で構成される経済を考える．
代表的な企業の生産関数が

$$Y = \left(\bar{K}\right)^{\alpha} \left(N^D\right)^{1-\alpha},$$

で与えられているとする．ただし，Y は生産量，$\bar{K}$ は資本量，N^D は労働需要量をあらわす．α は外生変数であり，$0 < \alpha < 1$ を満たす．資本量 $\bar{K}$ は一定と仮定する．このとき，この企業の短期の利潤 Π は，

$$\Pi = PY - WN^D,$$

と書ける．ただし，P は物価水準（すなわち生産物価格），W は名目賃金をあらわす．代表的企業は，物価水準 P と名目賃金 W を所与として，利潤を最大化するように労働需要量 N^D を決定する．

代表的な家計の選好は，以下の効用関数 U であらわされるとする：

$$U = C - \frac{\left(N^S\right)^2}{2}.$$

C は消費水準，N^S は労働供給量をあらわす．家計の予算制約は，

$$P^e C = WN^S,$$

であらわされる．ただし，P^e は期待物価水準である．代表的な家計は，期待物価水準 P^e と名目賃金 W を所与として，予算制約の下で効用を最大化するように，消費水準 C と労働供給量 N^S を決定する．

以下の (2.1) から (2.5) に答えなさい．

(2.1) 代表的な家計の効用最大化問題を解いて得られる労働供給量 N^S を求めなさい．(配点: 5 点)

(2.2) 代表的な企業の利潤最大化問題を解いて得られる労働需要量 N^D を求めなさい．(配点: 5 点)

(2.3) P^e と P を所与として，労働市場における均衡雇用量を求めなさい．(配点: 5 点)

(2.4) P^e を所与として，物価水準 P と生産量 Y の関係をあらわす総供給曲線を導出しなさい．(配点: 5 点)

(2.5*) 総需要曲線が

$$Y = \theta \cdot \frac{M}{P},$$

で与えられているとする．ただし，M は中央銀行の名目貨幣供給量をあらわす．θ は外生変数であり，$\theta > 0$ を満たす．適応的期待形成を想定する．予期しない貨幣供給の増大は，均衡生産量と均衡物価水準にどのような影響を与えるか．短期と長期の影響をそれぞれ説明しなさい．(配点: 10 点)

問題 3. (配点: 50 点)

2 期間経済における，ある代表的な家計の行動を考える．この家計の選好は，以下の効用関数 U であらわされるとする：

$$U(c_1, c_2) = u(c_1) + \beta u(c_2).$$

ただし，c_1，c_2 はそれぞれ，1 期目と 2 期目の消費水準である．$u(c_i)$ $(i = 1, 2)$ は 2 階連続微分可能な関数であり，$u'(c_i) > 0$, $u''(c_i) < 0$ を満たす．ただし，$u'(c_i)$，$u''(c_i)$ はそれぞれ，$u(c_i)$ の変数 c_i に関する 1 階微分および 2 階微分をあらわす．β は割引因子をあらわす外生変数であり，$0 < \beta < 1$ を満たす．

この家計の 1 期目と 2 期目の予算制約はそれぞれ，

$$\text{1 期目：}\ c_1 + a = w_1,$$
$$\text{2 期目：}\ c_2 = (1 + r)\, a + w_2,$$

で与えられる．ただし，a は貯蓄をあらわす．w_1 は 1 期目の所得，w_2 は 2 期目の所得，r は利子率をあらわす．w_1，w_2，r は外生変数である．以上の設定を，“基本モデル”と呼ぶ．

以下の (3.1) から (3.7) に答えなさい．

(3.1) 家計の効用最大化問題を解き，c_1 と c_2 の最適な関係をあらわす消費のオイラー方程式を求めなさい．(配点: 5 点)

(3.2*) 家計が効用最大化の結果，$a > 0$ を選択している状況を想定する．横軸を c_1，縦軸を c_2 とする $c_1 - c_2$ 平面上に家計の生涯予算制約と，選好をあらわす無差別曲線，所得配分 (w_1, w_2) および効用最大化の消費配分を図示した上で，利子率 r の上昇が c_1 と c_2 の選択に与える影響について，“所得効果”と“代替効果”の 2 つの用語を用いて説明しなさい．(配点: 10 点)

(3.3) “基本モデル”に政府の課税と支出を導入する．政府の 1 期目と 2 期目の予算制約はそれぞれ，

$$\text{1 期目：}\ b = g_1 - \tau_1,$$
$$\text{2 期目：}\ \tau_2 = g_2 + (1 + r)b,$$

で与えられる．ただし，g_1 は 1 期目の政府支出，g_2 は 2 期目の政府支出，τ_1 は 1 期目の一括税，τ_2 は 2 期目の一括税，b は 1 期目に発行される政府の公債水準，をあらわす．政府支出 g_1，g_2 は家計の選好に影響しない，と仮定する．g_1，g_2 を用いて，家計の生涯予算制約をあらわしなさい．(配点: 5 点)

(3.4*) 引き続き (3.3) で設定された経済を想定する．政府の課税のタイミングの変更は，家計の消費配分にどのような影響を与えるか．(3.3) で導出した家計の生涯予算制約を用いて説明しなさい．(配点: 5 点)

(3.5) “基本モデル”に，次のような2期目の所得の不確実性を導入する．

- 確率 1/2 で所得は $w_2+\varepsilon$ (状態 H と呼ぶ),
- 確率 1/2 で所得は $w_2-\varepsilon$ (状態 L と呼ぶ),

ただし，ε は外生変数であり，$\varepsilon>0$ を満たす．1期目の所得は確率1で w_1 である．

状態 H，状態 L における2期目の消費水準をそれぞれ c_2^H，c_2^L と記す．c_2^H，c_2^L は，

$$c_2^H = \underline{\quad \text{(a)} \quad} + (1+r)(w_1-c_1),$$
$$c_2^L = \underline{\quad \text{(b)} \quad} + (1+r)(w_1-c_1),$$

を満たす．このとき，家計の期待効用最大化問題は，

$$\max_{c_1} u(c_1)+\beta\left[\frac{1}{2}u\left(\underline{\quad \text{(a)} \quad}+(1+r)(w_1-c_1)\right)+\frac{1}{2}u\left(\underline{\quad \text{(b)} \quad}+(1+r)(w_1-c_1)\right)\right],$$

と書ける．空欄 (a), (b) を埋めなさい．(配点: 10 点)

(3.6) 引き続き (3.5) で設定された経済を想定する．期待効用最大化問題を解いて得られる消費のオイラー方程式を求めなさい．(配点: 5 点)

(3.7*) 所得の不確実性が無い“基本モデル”の経済と，(3.5) および (3.6) で想定した所得の不確実性がある経済では，どちらの方が貯蓄水準が高いか．説明しなさい．(配点: 10 点)

２０２６年度

大学院経済学研究科博士前期課程

入学試験問題

科目名	専攻	備考
経済史（１）	経済学専攻	

（１００点）

日本語または英語で解答しなさい。Answer all the questions either in Japanese or English.

以下の設問に答えなさい。（各 20 点）

１．幕末開港が日本国内の産業にあたえた影響について説明しなさい。

２．近代日本の経済発展において紡績業と製糸業の果たした役割をそれぞれ説明しなさい。

３．第一次世界大戦が日本の経済・産業に及ぼした影響について説明しなさい。

４．第二次世界大戦後の高度成長期には、好況と不況を繰り返しながら日本経済は発展した。その理由を説明しなさい。

５．第一次石油危機を境に日本経済は安定成長期へ移行したが、他の先進諸国に比べ順調に発展をつづけた。その理由を説明しなさい。

２０２６年度

大学院経済学研究科博士前期課程

入学試験問題

科目名	専攻	備考
経・済史（２）	経済学専攻	

（１００点）

問題は次ページから始まります。

Questions are in the following pages.

問題 I.　次の語句や人物について、経済史上の意味を明確にしながら、それぞれ 5 行程度で説明しなさい。日本語または英語で解答し、冒頭に事項番号（(1) ～ (6)）を記すこと。（各 10 点×6＝60 点）

(1) 教区簿冊 parish registers
(2) ダグラス・ノース Douglass North
(3) 水力紡績機 water frame
(4) 穀物法 The Corn Law
(5) ドーズ案 Dawes Plan
(6) 欧州連合 European Union

問題 II.　下の表は、1500 年と 1800 年のヨーロッパ各国における、都市人口、農村非農業人口、農業人口とに分けた人口分布を示したものである。各国は（A）から（D）までの 4 つのグループに分けられている。この表から、

(1)　（A）から（D）までのグループ分けは何を基準に分けられていると考えられるか、
(2) 表に掲げられた 9 か国から対照的な 2 国を選び、1500 年から 1800 年にかけて、その 2 国の間で表のような違いが生じた理由、

の 2 点について、日本語または英語で説明しなさい。（40 点）

著作権に配慮して、図表は省略します。
出典は記載のとおりです。

出典：R. C. アレン（眞嶋史叙他訳）『世界史のなかの産業革命：資源・人的資本・グローバル経済』名古屋大学出版会、2017 年、表 1-1、19 ページより作成。

２０２６年度

大学院経済学研究科博士前期課程

入学試験問題

科目名	専攻	備考
経営史（１）	経済学専攻 経営学系専攻	

（１００点）

次の問題２問にすべて解答しなさい。

１．　以下の語句①から⑦それぞれについて簡潔に説明しなさい。日本語または英語で解答すること。（日本語の場合それぞれ 100～200 字を目安に。英語の場合は 50～150 語程度。）
Provide concise explanations of the following terms. You may write your answers in either Japanese or English. (For answers in Japanese, aim for approximately 100 to 200 characters per explanation. For answers in English, approximately 50 to 150 words per explanation is recommended.) (各 10 点×７＝70 点)

① オランダ東インド会社 Dutch East India Company
② 「世界の工場」（19 世紀）"The Workshop of the World" (in the 19th century)
③ 第二次産業革命 The Second Industrial Revolution
④ アルフレート・クルップ Alfred Krupp
⑤ フォード・システム　Ford System
⑥ 世界大不況（20 世紀）The Great Depression (in the 20th century)
⑦ 「ニューエコノミー」"New Economy"

２．　アメリカ合衆国におけるビッグビジネスの成立について簡潔に説明しなさい。ただし以下の５つの語句をすべて用いなさい。日本語または英語で解答すること。（日本語の場合、200～300 字を目安に。英語の場合はおおむね 100～180 語程度。）
Provide a concise explanation of the rise of big business in the United States. Be sure to use all of the following terms. You may write your answer in either Japanese or English. (If writing in Japanese, aim for approximately 200 to 300 characters. If writing in English, around 100 to 180 words is recommended.) (30 点)

＜鉄道（railways）＞　＜ライン&スタッフ(Line & Staff)＞
＜US スチール（U.S. Steel）＞　＜規模の経済（economies of scale）＞
＜A.D.チャンドラー（A.D.Chandler Jr.）＞　(以上)

２０２６年度

大学院経済学研究科博士前期課程

入学試験問題

科目名	専攻	備考
経営史（２）	経済学専攻 経営学系専攻	

（１００点）

以下の問題２問にすべて答えなさい。（日本語または英語で解答すること）

問題１　（50 点）

日本経営史学では、「財閥」、「企業集団」、「系列」という３つの用語が度々使用される。これら３つの用語について、それぞれの定義を述べた上で、それらの差異を説明しなさい。

問題２　（50 点）

19 世紀後半から 20 世紀初頭の日本において、製糸業が在来産業から近代産業へと転換した過程について説明しなさい。ただし、説明にあたっては下記の（1）から（3）までのすべての用語を、それぞれ１回以上使用しなさい。

(1) 商標
(2) 相対賃金制
(3) 売込問屋

２０２６年度

大学院経済学研究科博士前期課程

入学試験問題

科目名	専攻	備考
経営組織・戦略	経営学系専攻	

（１００点）

問題は次ページから始まります。

Questions are in the following pages.

以下のすべての問いに，日本語または英語で解答しなさい。
Answer all the questions either in Japanese or English.

設問 I

次ページの表は，管理職に占める女性の比率（女性管理職比率(%)）を従属変数とした回帰分析の結果である。データは，東洋経済新報社による「CSR データ」が用いられ，サンプルは，日本国内で従業員が 100 人以上の全上場企業，分析対象期間は，2008 年度から 2016 年度である。分析モデルは，線型固定効果モデルであり，独立変数・統制変数の値は，従属変数と同じ年度ではなく，1 年度前の値が用いられている。

表における「ダイバーシティ部署」「部署」はいずれも，「多様な人材の能力活用・登用を目的とした専任部署」を設置していると企業が回答した場合に 1，そうでない場合は 0 の値をとるダミー変数である。

表にもとづき，次の問いに答えなさい。

1. ダイバーシティ部署の設置の係数は，Model0 では 0.1%水準で有意であるのに対して，Model1 では 10%水準でも有意ではない。これはなぜか。4 行以内で答えなさい。（10 点）
2. Model0 と Model1 にもとづくと，ダイバーシティ部署の設置が女性管理職比率に与える効果をどのように解釈するのが適切であるか。2 行以内で答えなさい。（10 点）
3. Model2 にもとづくと，ダイバーシティ部署の設置と女性役員比率は，女性管理職比率に対してどのような効果があるといえるか。5 行以内で答えなさい。（10 点）
4. Model2 の分析結果は，ダイバーシティ部署の設置に関してどのようなインプリケーションを持つか。8 行以内で答えなさい。（10 点）
5. Model1 にもとづけば，ダイバーシティ部署の設置は，有意な影響を持たない。しかし，このように効果が必ずしも明確ではない施策が多くの企業に採用されることは頻繁に観察される。これは，何と呼ばれる理論によって説明が可能か，答えなさい。その上で，その理論にもとづき，なぜ上述の現象が起こるのかについて，10 行以内で答えなさい。（20 点）

表：ダイバーシティ部署の設置が女性管理職比率に与える効果

著作権に配慮して、図表は省略します。
出典は記載のとおりです。

出典：吉田航（2024）「ダイバーシティ部署の設置は企業の女性管理職比率を高めるか？」『組織科学』Vol. 57, No. 3, p. 75

設問 II

パーソナリティ理論における特性論（trait theory）とは何か。具体的な例を出しながら，特性論ではないパーソナリティ理論との違いが分かるように，12 行以内で答えなさい。（20 点）

設問 III

代表性ヒューリスティック（representativeness heuristic）を用いることにより生じる意思決定のバイアスについて，具体的な例を 2 つ挙げなさい。例を挙げる際には，代表性ヒューリスティックを用いることで，なぜそのバイアスが生じるのかが分かるように答えなさい。（20 点）

以上

２０２６年度

大学院経済学研究科博士前期課程

入学試験問題

科目名	専攻	備考
マーケティング	経営学系専攻	

（１００点）

以下の問いに答えなさい（英語による解答も可とする）。

問１：消費者の購買意思決定プロセスにおける「情報探索」と「代替案評価」の段階に関して、以下の問いに答えなさい。

(1) 情報探索について情報源に基づいた 2 つの類型を挙げ、それぞれの概要を説明しなさい。(10 点)

(2) 代替案評価の過程において、ある製品カテゴリーに対して知識の高い消費者が拒否集合を持つ事例を１つ挙げなさい。また、知識の高い消費者が拒否集合を持つ理由を知識の低い消費者と比較して説明しなさい。(20 点)

(3) 消費者の選好や選択を説明するマーケティングの統計モデルにおいて、一般に代替案評価の方略には線形補償型（線形代償型）が採用されている。これについて問題点を指摘し、解決策を示しなさい。(30 点)

問２：新製品の普及過程について、以下の問いに答えなさい。

(1) 新製品の普及について、E.M.ロジャース(E.M. Rogers) が示した類型における「Innovators（イノベーター; 革新的採用者)」と「Early Adopters（アーリー・アダプター; 早期採用者)」のそれぞれの性質と、その差異について説明しなさい。(20 点)

(2) 新製品の普及過程について、標準的なモデルでは１時点の新規採用者の割合（採用率）の推移が「釣り鐘型（ベル型)」になるとされている。しかしながら、実際の製品には「単調減少型（とくに指数関数的減衰型)」になるものもある。この背景を適切なモデルあるいは理論を用いて説明しなさい。(20 点)

２０２６年度

大学院経済学研究科博士前期課程

入学試験問題

科目名	専攻	備考
会計	経営学系専攻	

（１００点）

以下の設問に日本語，または英語で答えなさい．

問題 1

会計の基礎概念・基準設定に関連する次の各問に答えなさい．[計 50 点]

(1) 会計基準の設定における帰納的アプローチと演繹的アプローチについて説明し，1949 年に設定されたわが国の「企業会計原則」はどちらのアプローチによって形成されたものか答えなさい．(10 点)

(2) 帰納的アプローチの問題点について説明しなさい．(15 点)

(3) 企業実体の公準，継続企業の公準，貨幣的測定の公準について，それぞれ説明しなさい．(15 点)

(4) わが国の企業会計基準委員会が公表している討議資料「財務会計の概念フレームワーク」では，財務報告の目的についてどのように規定されているか，説明しなさい．(10 点)

問題 2

固定資産に関連する次の各問に答えなさい．[計 30 点]

(1) 企業会計原則・注解 20 で列挙されている 4 つの減価償却方法を挙げ，それぞれの内容について説明しなさい．(20 点)

(2) 資本的支出と収益的支出について，それぞれの会計処理の違いに言及しつつ，説明しなさい．(10 点)

問題 3

企業価値評価に関連する次の各問に答えなさい．[計 20 点]

(1) 配当割引モデルで用いられる割引率と，割引キャッシュフロー・モデル（エンタープライズ DCF 法）で用いられる割引率について説明しなさい．(10 点)

(2) サステイナブル成長率について説明しなさい．(10 点)

２０２６年度

大学院経済学研究科博士前期課程

入学試験問題

科目名	専攻	備考
最適化数学	経営学系専攻	

（１００点）

以下のすべての問題に，日本語または英語で答えなさい．ただし，計算過程も記述すること．

問題 1. (25 点) 行列

$$A = \begin{pmatrix} -1 & 3 \\ -2 & 4 \end{pmatrix}, \quad B = \begin{pmatrix} 1 & 3 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$$

について，以下の問いに答えなさい．

(1) $B^{-1}AB$ を求めなさい．(10 点)

(2) 正の整数 n に対して，A^n を求めなさい．(15 点)

問題 2. (30 点) 2 変数実数値関数

$$f(x_1, x_2) = \exp(x_1 + 2x_2) + x_1^2 + x_1x_2 + x_2^2 - 2x_2 \qquad (x_1, x_2) \in \boldsymbol{R}^2$$

について，以下の問いに答えなさい．ただし，exp は指数関数 (exponential function) を表し，$\boldsymbol{R}^2$ は 2 次元実数ベクトル全体の集合を表す．

(1) 勾配 (gradient) $\nabla f(x_1, x_2)$ を求めなさい．(10 点)

(2) ヘッセ行列 (Hessian matrix) $\nabla^2 f(x_1, x_2)$ を求めなさい．(10 点)

(3) $f(x_1, x_2)$ の最小値 (minimum value) $\min_{(x_1,x_2)\in\boldsymbol{R}^2} f(x_1, x_2)$ を求めなさい．(10 点)

問題 3. (45 点) 制約付き最小化問題 (constrained minimization)

$$\begin{aligned} \text{minimize} \quad & x_1^2 + x_2^2 + x_3^2 + x_1x_2 + x_2x_3 + x_1x_3 \\ \text{subject to} \quad & (x_1, x_2, x_3) \in \boldsymbol{R}^3 \\ & x_1 + 2x_2 + 3x_3 = 6 \\ & x_2 - x_3 \geq 0 \end{aligned}$$

について，以下の問いに答えなさい．ただし，$\boldsymbol{R}^3$ は 3 次元実数ベクトル全体を表す．

(1) この問題が凸計画問題 (convex programming problem) であることを示しなさい．(10 点)

(2) 大域的最適解 (global optimum) と最小値 (minimum value) を求めなさい．(35 点)

２０２６年度

大学院経済学研究科博士前期課程

入学試験問題

科目名	専攻	備考
確率・統計 （計量経済学を含む）	経済学専攻 経営学系専攻	

（１００点）

以下のすべての問題に，日本語または英語で解答しなさい。
(Answer all questions either in Japanese or English.)

結果の導出過程や計算過程は省略しないように。
(Make sure not to omit any steps in the derivation or calculation process.)

I. (40 点)：連続確率変数 X の確率密度関数 (probability density function) が以下の

$$f_X(x) = \begin{cases} ae^{-2x}, & (x > 0) \\ 0, & (x \leq 0) \end{cases}$$

であるとき，次の各問に答えなさい。ただし，$a > 0$ である。

(1) $f_X(x)$ が確率密度関数であるためには，a の値は何かを答えなさい。(10 点)

(2) X の累積分布関数 (cumulative distribution function) を $F_X(x)$ とする。この $F_X(x)$ を求めなさい。(10 点)

(3) $Y = 1 - X$ とするとき，Y の累積分布関数 $F_Y(y)$ を X の累積分布関数 $F_X(\cdot)$ を使って表しなさい。(10 点)

(4) Y の確率密度関数 $f_Y(y)$ を求めなさい。(10 点)

II. (20 点)：確率変数 X_i, $i = 1, 2, \ldots, n$, は独立で，同一な分布に従っており，平均と分散に関しては，$\mathrm{E}[X_i] = \mu$, $\mathrm{var}[X_i] = \sigma^2$ で，$0 < \sigma^2 < \infty$ とする。標本平均 (sample average) $\bar{X}$ と標本分散 (sample variance) s^2 を以下のように定義する。

$$\bar{X} = \frac{1}{n}\sum_{i=1}^{n} X_i, \quad s^2 = \frac{1}{n-1}\sum_{i=1}^{n}(X_i - \bar{X})^2$$

このとき，次の各問に答えなさい。

(1) $\bar{X}$ の分散 $\mathrm{var}[\bar{X}]$ を求めなさい。(10 点)

(2) s^2 が σ^2 の不偏推定量 (unbiased estimator) になっていることを示しなさい。(10 点)

III. (40 点)：次の回帰式 (regression equation) を考える。

$$Y_i = \alpha + \beta X_i + u_i, \quad i = 1, 2, \ldots, n$$

α と β はパラメータ，X_i は説明変数，u_i は誤差項，n は標本サイズである。また (Y_i, X_i), $i = 1, 2, \ldots, n$, は独立で，同一な分布に従っており，

$$\mathrm{E}[u_i] = 0, \quad 0 < \mathrm{E}[u_i^2] < \infty, \quad 0 < \mathrm{var}[X_i] < \infty$$

を仮定する。このとき，次の各問に答えなさい。

(1) β の最小 2 乗推定量 (ordinary least squares estimator) $\hat{\beta}$ を求めなさい。(5 点)

(2) 説明変数 X_i を条件とする誤差項 u_i の条件付き期待値 (conditional expectation) について，$\mathrm{E}[u_i|X_i] = 0$ という仮定を考える。この仮定のもとで，説明変数 X_i と誤差項 u_i が無相関であることが成り立つことを示しなさい。(10 点)

(3) 仮定 $\mathrm{E}[u_i|X_i] = 0$ が成立していない場合，$\hat{\beta}$ は β の一致推定量 (consistent estimator) にはなっていないことを示しなさい。(10 点)

(4) 仮定 $\mathrm{E}[u_i|X_i] = 0$ が成立していない場合，一致性をもつ β の推定量を得る方法の一つとして操作変数法 (instrumental variable method) がある。操作変数を，独立，同一分布に従う Z_i, $i = 1, 2, \ldots, n$, としたとき，操作変数法による推定量が一致性をもつために必要な Z_i に関する仮定を答えなさい。(5 点)

(5) 仮定 $\mathrm{E}[u_i|X_i] = 0$ が成立していない場合，操作変数を Z_i としたときの操作変数法による β の推定量 $\tilde{\beta}$ を求めなさい。(10 点)